

全自者協ニュース

JAAS (Japanese Association of Autism Support)

- ・全自者協ニュース／第62号／2023年（令和5年）11月
- ・発行所＝全日本自閉症支援者協会・事務局 ☎ 072-662-8133
- ・発行人＝松上利男・編集人＝五十嵐猛・URL <http://zenjisakyoko.com>

いま求められる「実感」と「体感」と「対話」にもとづく学び

立教大学現代心理学部 大石 幸二

私は、大学院生の時代に、恩師から自閉スペクトラム症（ASD）のある人と付き合う時に、「君の場合は目の刺激価が強いから、ASDの方を直視すると相手が少し不安になったり、怖さを感じたりするかもしれません」というように指摘されたことがあった。それからというもの、ASDの方に自分がどのように映っているかを気にするようになった。また、別の機会には、「シンクロの原理というのがあります。動きが同調したり、テンポが揃ったりすると、ASDの方のほうから君のことをチラッと見てくれるようになります」「ASDの方にとって、意味ある人的環境としてうまく機能する必要がありますよ」というように教えていただいた。それからは、ASDの方が今まさに動こうとしている方向や、注意を向けている対象に意識を傾けるようになった。学術研究論文から得た知識も大切ではあるが、実際の関わりについてスーパーバイズを受けて理解したことは、実感を伴った知見として自分の中に蓄えられている。実感を伴う学びは、とても大切である。

昔は、よい時代であった。今よりも心にゆとりがあり、自由に体験ができ、見よう見まねで「技」を修得できるチャンスも多かった。教育や心理を勉強しながらも、ボランティアにいそしみ、障害のあるお子さんの親御さんの願いに耳を傾ける機会があり、施設や事業所を訪ね体感として福祉事業の実際のすがたを認識する時間を持つことができた。資格制度や研修制度が整えられていく中で、このような自由度の高い創造的な学びを行うことができる機会が減ってしまったという印象を、私は持っている。次代を担う若い世代の人《財》育成は大丈夫だろうか。体感として修得した腕前は、確かに血肉となるようである。

そのような問題意識もあって、最近、学生とともに知的発達症（ID）と ASD を併せ持つ方が日々

を過ごす居住型の施設を訪ねるようになった。大学に身を置く研究者としては、観察し、分析し、携わり、共有するというを行うわけだが、そんな中で嬉しい発見も多い。いわゆる強度行動障害のある方の支援について、施設職員の先生方が、利用者・当事者の方との相互の信頼関係と対話の重要性を指摘され、実践して下さっているということである。非障害の人から見て問題に感じる行動がコミュニケーション機能を有することについては、B.Iwata 博士や M.Durand 博士が1970～80年代に系統的に実施した調査により明確にされている。このような知見を援用せずとも、個人の権利を擁護し、その選択や意思決定を尊重しつつ利用者・当事者の方に携わってこられた先生方は、外界との対話や他者との対話が円滑になるような環境を構成することの重要性が理解されているのである。すると、私たち研究者は、それを理論的に意味づけ、多くの先生方が共有できる技術として整理し、それを広め、浸透させるという役割に徹することができる。そして、障害の有無を問わず、皆が自己発揮でき、生きがいを実感できるような社会の構成へと歩み出すことができる。その過程で人《財》も育つと思われる。人《財》が育つ際も対話が重要である。

先達や先輩がすぐ側に居てくださり、生きることについて先頭を歩く姿を垣間見られた時代には、「人《財》育成」などと言挙げする必要もなかった。しかし、現在では、体系化され、システム化された社会の姿がある。スーパーバイズや自分事として体感できる研修の機会も、これらの体系やシステムの中にうまく組み込まないと人《財》が育ちにくくなった。実践知と理論知の往還という課題は、実践家と研究者が力を合わせて達成していかなければならない。今後も、関係者が手を携えて、生活支援を漸進させなければならない。

令和5年度 全日本自閉症支援者協会 総会 議事録

令和5年7月12日(水)にAP東京八重洲にて、全日本自閉症支援者協会総会の年次総会が開催されました。

○参議院議員 山本博司様 ご講演
総会に先立ちまして、発達障害の支援を考える議員連盟事務局長の山本博司様より「発達障害支援の今後の課題と展望」をテーマにご講演を賜りました。発達障害支援にかかる背景やこれまでの経緯とともに、強度行動障害のある方々への支援の必要および施策、子ども家庭庁の組織体制や発達障害児の支援についても触れていただき、短時間ではございましたが、学びの多い貴重な時間となりました。

○松上会長挨拶

新型コロナウイルス感染症が5類に変更になりましたが、依然として感染が広がっている心配な状況が続いています。その様な状況の中ではございますが、久しぶりに対面でお会いすることができ、嬉しく思います。

昨年度は社会保障審議会の障害者部会においても行動障がいのある人に対する支援が論点となったことを受けて「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会」が開催され、私が全自者協を代表して構

成員として参加しました。次期報酬改定に向けた団体ヒアリングにも全自者協が指名されましたので、政策委員会を中心に提案内容のまとめ作業を行っている状況です。また、全自者協から2名の専門官を厚労省に送り出しており、発達障がいや強度行動障がい等の支援の充実と人材育成の達成に向けてあゆみを進めていきたいと考えております。

また、全自者協では改めて協会の理念やビジョン、ミッションを再構築するとともに役員の選出の在り方なども検討していくために協会の在り方を検討するプロジェクトを立ち上げました。また後ほど石井副会長よりご報告があるかと思えます。皆様にもご意見を頂き、今年度も全自者協がより充実した活動を続けていくようにしたいと思えます。

どうぞ、よろしく願います。

○議事の進行

定款第16条の規定により松上利男会長が議長に選出された後、事務局から委任状30施設出席32施設で過半数を満たしていることで総会が成立していることを報告いたしました。下記、11件の議案が提出され、いずれも出席者の全員一致で承認をいただ

きました。

(1) 令和4年度事業報告

実施した事業は、①厚生労働省等の行政機関、日本自閉症協会や日本知的障害者福祉協会をはじめとした関連団体との情報交換、連携、要望活動②第35回全国研究大会(大分WEB大会)の開催③第36回全国研究大会(神奈川大会)の主管施設選定④会報(全自者協ニュース)の年2回発行と関連団体等への送付⑤世界自閉症啓発デー2022の共催⑥権利擁護に関する調査の企画⑦令和4年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修の実施⑧部会・委員会およびブロック活動の推進⑨協会の在り方や理念等の再構築を検討する「びるどUPプロジェクト」の発足

また、令和4年度の活動内容を時系列に報告いたしました。

(2) 令和4年度決算報告

収入の部、支出の部ともに合計8,074,211円の決算となりました。

事務局より報告後、水野努監事(けやきの郷)より適切に会計処理がなされたとの報告がありました。

(3) 令和5年度事業計画案

①行政機関および関連団体との情報

交換、連携・協議

厚生労働省、日本自閉症協会、日本知的障害者福祉協会、発達障害者支援センター全国連絡協議会、JDDネット 他

②要望活動

制度や報酬に関する要望活動、施設部会の取り組み等

③第36回研究大会の開催

④第37回大会の企画

(担当…北海道東北ブロック)

⑤会報の発行、およびそれに伴う広報委員会の開催、情報提供

(年2回発行)

⑥世界自閉症啓発デー2023の共催/日本実行委員会への参画

⑦調査・研究活動

⑧令和5年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修の実施

⑨協会ブロック活動の推進

⑩びるどUPプロジェクト(協会の在り方、理念、ビジョン等を検討)

⑪その他

(4) 令和5年度予算案

収入の部、支出の部ともに合計9,493,359円の予算案となっております。

(5) 発達障害支援スーパーバイザー養成研修

①令和4年度報告・ベシックコース…受講者20名(実務研修3名)・アドバンスコース…受講者11名・マスターコース…エントリーな

し・決算報告…収入支出ともに1,342,733円でした。

②令和5年度計画・ベーシックコース…募集数60名(実務研修10名)・アドバンスコース…募集数30名・マスターコース…SV研修あり方検討会(常任理事会内)にて先任マスターを認定しました。先任マスター会を年2〜3回実施するとともに各ブロック活動の情報交換共有を行う予定です。予算案…収入支出ともに2,839,733円となっております。

(6)第35回全国研究大会の報告
主管を務められた萌葱の郷の五十嵐理事よりご報告をいただきました。令和5年1月28日に「全自者協の目指す人材育成」をテーマとして大分WEB大会を開催いたしました。

松上会長、五十嵐前会長、石井副会長、志賀政策委員長、山根発達障害施策調整官にご登壇いただき、実践を通してスローバイズや関係諸機関とのネットワークを展開させていくことの必要性、事業所にOJTを定着させることが重要であること、事業所にスローバイズン体制が必要であること、自閉症児者の生活を地域の豊かにしていく道標を全自者協が担っていることなどが共有されました。

(7)第36回全国研究大会の開催について

小林副会長(横浜やまびこの里)より、企画案についてのご説明をいただきました。

令和5年12月11日(月)に新横浜ラポールにて開催を予定しています。テーマとしては検討中ではありますが、権利擁護虐待防止や神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例についてが有力な状況です。

12/11は対面にて行政報告、基調講演を行い、後日オンライン配信にて実践報告等を行う方向で検討しています。

(8)役員案
役員改選期ではございませんが、ご退職やご異動に伴い一部役員の変更が承認されました。

監事および自閉症啓発デー実行委員…小野寺久氏が退任され塩田隆志氏が就任。ASJ保険給付監査委員…茂手木厚氏が退任され赤川剛氏が就任されました。

(9)在り方検討会報告
石井副会長より「びるどUPプロジェクト」に関するご報告をいただきました。

理念として協会が大事にしている事を表現していくことになりました。理念の構成要素としてミッション、ビジョン、バリュー、スピリット、スローガンの5つを考えています。毎月1回程度、ミーティングを行っており、现阶段ではミッションとビジョンはたた

き台ができました。年内には5つの構成要素全てを完成させ、来年の総会でお披露目したいと考えております。

さらには、協会の役員の選出やブロックの分け方についても検討していく予定しております。

(10)強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告
松上会長にご報告いただきました。

中核的人材の育成とその中核的人材を育成する為の広域的支援人材の育成の仕組みづくりが大きなテーマです。また、もう1点は強度行動障害がいのある方への急性期の集中的支援も今後の大きなポイントになるかと思えます。また、幼児学齢期からの合理的配慮も重要だということ、家族支援や医療との連携など意見が出されていきました。全自者協は8月に報酬改定のヒアリングを受ける予定になっております。機関紙に厚労省の西尾専門官が寄稿してくださり、その中で触れてくださっているの、ご覧ください。

(11)その他

▼新規入会 ひまわりの風(愛知県…社会福祉法人ひまわり福祉会)、生活介護ハレルヤ(岡山県…株式会社ハレルヤ)
▼退会 杉の郷えぼし寮(和歌山県…美熊野福祉会)

(全自者協事務局)

強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書～概要②～

4. 状態が悪化した者に対する「集中的支援」の在り方

- 強度行動障害を有する者が状態の悪化により在宅やグループホームから、随時特性や行動の要因分析等の適切なアセスメントを行い、有効な支援方法を整理した上で、地域支援を集中的に実施し、状態の安定を図る「集中的支援」の取組を進めることが必要。
※行動の悪化により、(自)立支援の協議会等において、関係者(本人・家族・事業所等)と、関係機関(行政・医療・福祉等)とが連携して対応していくことが必要。
※集中的支援の実施にあたっては、本人・家族に申し送りし、同意を得ることで、一定の期間を限定し、地域で実施していく体制が必要。
- 集中的支援の具体的な方法としては、以下のようものが考えられる。
①地域の支援人材が関係機関等と連携し、定期的にモニタリングを実施し、適切なアセスメントと有効な支援方法を整理し、行い、関係機関と連携していく体制。
②地域の支援人材が関係機関等と連携し、定期的にモニタリングを実施し、適切なアセスメントと有効な支援方法を整理し、行い、関係機関と連携していく体制。
③グループホームや施設入所、短期入所等を活用し、二時的に環境を変えた上で、適切なアセスメントを行い、有効な支援方法を整理した上で元の住まいや活動の場に戻していく体制。

5. こどもからの予防的支援・教育との連携

- 幼児期からの個々のこどもの特性と家族の状況に応じた適切な関わりが、将来の強度行動障害の予防につながる考えられる。幼児期からこどもの強度行動障害のリスクを把握し、家族を含めたライフステージを通して地域生活を支えていく体制づくりが必要。
- 幼児期・学齢期・思春期の支援にあたっては、福祉と教育の両面と発達支援の両面にわたって一貫した支援を進め、行い、障害特性のアセスメントや療育の提供に努め、行動上の課題を適切に支援していくことが必要。
- 在宅の強度行動障害を有する児を支援するため、専門医を有する人材、家庭や事業所、学校、医療機関等を訪問して調整を行った、複数の事業者の定期的な連携会議に出席して情報共有する等、ライフステージや関係機関の支援を連携したような形で進めていくことが必要。

6. 医療との連携体制の構築

- 強度行動障害の状態の背景にある疾患や障害を医療により完全に治すことは難しく、医療の充実と併せて、福祉と教育と連携した支援を進めることが必要。
- 精神科医療への関わりについては、移行先を見出し介入を行い、入院中の生活と地域生活への移行を支援していくことが必要。
- 精神科医療における連携体制の構築を進めていくことが必要。
- 強度行動障害を有する者や身体疾患の療育を受けられる体制づくりを進めていくことが必要であり、治療に負傷も含まれた報酬上の評価について検討を進めることが必要。また、日頃から福祉と医療の間の連携を強化していくことが重要。

強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書～概要①～

1. 支援人材のさらなる専門性の向上

- 強度行動障害の特性を正しく理解し、組織のある標準的な支援チームで行うことを基本として、予防的な観点も含めて人材育成を進めることが重要。
●標準的な支援とは何らかの障害特性やアセスメントし、強度行動障害を引き起こしている原因等を把握する支援。
●標準的な支援を踏まえ、適切な支援を実施し、組織の中で適切な指導・指導が可能な支援体制で集中的な支援を実施していき、状態の安定を図る。標準的な支援を踏まえ、適切な支援を実施し、組織の中で適切な指導・指導が可能な支援体制で集中的な支援を実施していき、状態の安定を図る。標準的な支援を踏まえ、適切な支援を実施し、組織の中で適切な指導・指導が可能な支援体制で集中的な支援を実施していき、状態の安定を図る。

2. 支援人材の把握と相談支援やサービス等に係る調整体制の在り方

- 市町村は、本人とその家族の支援ニーズを適切に把握して支援につなげていくこと。(自)立支援協議会等を活用しながら地域支援体制の整備を進めていくことが重要。その際、支援につなげていくには、本人・家族を把握し、フォローしていくことが重要。
●相談支援センター、生活支援センター、相談支援センター、相談支援センター等の相談支援体制が、それぞれの役割や強みを活かしながら、相談支援やサービス等に連携して行うことが重要。

3. 日常的な支援体制の整備と支援や受入の拡充方策

- 生活サービス(主に生活介護)、短期入所、訪問サービスが地域で安定的に提供されるような体制の整備を進めていくことが重要。
●強度行動障害を有する者の居住の場として、グループホームにおける受入入所への体制整備を進めていくことが重要。
【注】 少人数の生活であり生活環境や支援内容が個別化しやすい。一人一人の特性に合わせ、生活サービスや行動訓練等を利用した際の外出ができる。等。
【留意】 十分なスタッフを確保するため、行動訓練の提供に必要となる一定の人数を確保し、その体制を整えていくことが必要。
●生活サービス施設では、地域移行に向けた取組を進めつつ、標準的な支援や個別化・個別化を必要とする支援を一層向上させることが必要。
【留意】 地域移行に向けた取組を進めつつ、標準的な支援や個別化・個別化を必要とする支援を一層向上させることが必要。
●地域移行に向けた取組を進めつつ、標準的な支援や個別化・個別化を必要とする支援を一層向上させることが必要。
【留意】 地域移行に向けた取組を進めつつ、標準的な支援や個別化・個別化を必要とする支援を一層向上させることが必要。
●地域移行に向けた取組を進めつつ、標準的な支援や個別化・個別化を必要とする支援を一層向上させることが必要。
【留意】 地域移行に向けた取組を進めつつ、標準的な支援や個別化・個別化を必要とする支援を一層向上させることが必要。

発達障害支援スーパバイザー養成研修

『2023年度経過報告』

発達障害支援

スーパバイザー養成研修

特定事務局 北川 裕

今年度のSV研修も、ベーシックコース、アドバンスコース共に例年と同等数の受講者の方々に受講いただいています。毎年計画的にご利用いただけている施設や機関もあり、支援や人材育成の基礎を学べる研修として認知されている手応えを感じています。

今年度、スーパバイザーの基礎を学ぶアドバンスコースには、すでに施設や機関で人材育成に携わっておられる方、強度行動障害支援の領域で言われている「中核的な支援者」に該当する方が多数参加されました。そのような方々から、「支援者支援の重要性」の講義とPCAGIPによる事例検討は、関連づいたものとして多くの学びを得たと好評をいただきました。

アドバンスコースの受講者の皆さんは、ご自身の所属されている施設や機関で、今まさに人材育成の難しさに直面されていて、演習の際には

「我々の若い頃は、先輩のやり方を見て盗めという時代だった。今の若い職員は、見て学ぶということがない。かと言って、ちょっと厳しく指摘や指導をすると辞めてしまうこともある。でも、利用者に寄り添うのは本来にしんどいことだし、利用者から求められることに応えつつ社会的な行動を促すことには厳しさも必要になってくる。だから、耐性もつけていかないとけない。どうしたらよいものか・・・」といった話に共感が集まっていました。

支援者支援の講義を受けて、「私はまさに今、支援者支援の必要性を感じているんだ」と認識したり、「そうか！必要なのは、指導や教育ではなくて、支援者支援なんだ！」と気づきを得た方も多かったようです。そして、「では、実際にどう支援者を支えたら良いのか。事例検討でそんなことができるのか？」といった思いでPCAGIP事例検討の演習に入られた方もいらしたようでした。

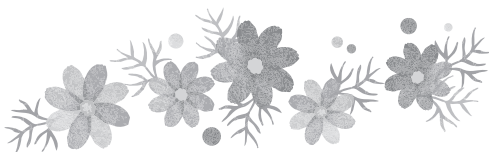
今年度の事例検討の演習では、支援上の悩みの事例の他に、後輩支援者の育成に悩む事例も提供していただけでした。「支援したくてもさせてもらえなかったり、時には叩かれたり噛まれたりで大変なはずなのに、アドバイスを活かす様子もない

し、辛さや悩みを話してくるわけでもない。どう指導したらよいのか、どう支えたら良いのか、いろいろ工夫はしてみたけれど・・・」。どこかの施設にもいそうな支援者、育成者として似通った悩みはありそうな事例に、参加者は皆で協力して事例提供者の悩みを解きほぐしていきました。支援同様、良い育成方法を思いつくところまではいきませんでした。事例提供者が質疑の中でご自分で気づいて、チャレンジしてみようと思うアイデアは着想できておられました。参加者も身につまされたり、自分自身を振り返ったり、気づきを得たりと、一様に気持ちの活性化していました。

PCAGIP事例検討会を終えた時に「やはり、支援や育成の話を前向きな気持ちでできると楽しいよね。この仕事の原点だよ」といった感想をいただけると、良い検討会ができたと思える感じがするので、その感覚を共有することが支援者支援に繋がっているのだと思っています。もちろん、支援にしろ、育成にしろ、勇気づけ合っている先に、適切な支援や育成を見つけていくことが目標です。ただ、そうした目標に1回の事例検討で辿り着けるわけもなく、技能や技法を学んでから使

いこなせるようになるだけでも長い時間と鍛錬が必要です。何度も何度も事例検討を繰り返して、理解を掘り下げ、視野を広げ、ブラッシュアップをしていく必要があります、その数だけエンパワメントも必要になるのだと思います。

そうした研鑽には長期間継続して関わってくれるサポーターとサポーターが集える場が必要です。今年度は12月に引き続き協会関係ブロックと共同開催の研修会を実施し、その中で経過報告を行います。そして、次年度以降もブロック活動の中で継続検討の機会を持っていければと考えています。その継続の中で中核的支援者が広域的支援者になれるよう、支え合っていきたいと思っています。



全自者協 2022年度 北海道・東北ブロック 研修について

《研修企画に当たって》

北海道・東北ブロックでは、2022年度の研修企画のため、5法人（フレンドシップいわて、侑愛会、聖静学園、希望の里、はるにれの里）のスタッフが定期的にリモートで会議を重ね準備をしてきました。多くの意見が交わされた中で、今回の研修は権利擁護、人権、行動上の課題を多く抱えている方への支援体制、当協会がこれから目指すこと、そして日々現場で苦労されているスタッフの方たちへのメッセージを発信、といった柱で計画されました。開催方法としては、関係する法人職員の皆さんに少しでも多くご視聴いただけるよう集合やライブではなく動画配信としています。

岩手県での虐待通報に関する調査報告を『フレンドシップいわて指定相談支援事業所サポートにじ』の小川様より、行動上の課題を多く抱えている方への支援体制や人権を守るために必要なこと、これからの協会が目指すことなど、当協会の松上会長とはるにれの里の木村理事長に相談をいただきました。進行は侑愛会の中野施設長という4名の豪華なメ

ンバーとなりました。2023年度の研修についても現在企画を練っており、2月開催に向けて準備をすすめています。

はるにれの里 佐藤貴志

《北海道・東北ブロック研修を視聴して》

今回の研修では、行動障害のあるASD支援の困難さと障害者虐待に関連する課題として、A県での障害者虐待の市町村通報の2つの調査報告（社会福祉士会会員様からのご回答）に指定相談支援事業所サポートにじ小川様からの報告と全自者協の松上会長と木村理事長（はるにれの里）の対談で「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会」「障害者の人権を守るために何が必要か」「これからの協会の目指すこと」（会員施設の職員に向けたメッセージ）の3つのテーマにお話しをされていました。とてもいただいた行数ではお伝え出来ない内容の濃い研修でした。

まずは、岩手県指定相談支援事業所サポートにじの小川様から「行動障害のあるASD支援の困難さと障害者虐待に関する課題」と題して「障害者虐待の市町村通報について」A県での2つの調査から出た考察をお聞きしました。相談という立場からサービスに繋がらない困難さ、繋

がってからの支援の困難さ両方を見ることができたことで、小川様の調査では行動障害のあるASDサービスの受け入れが困難な理由として、1番は支援スキルが不足しているが63・6%、受け入れる場所個別スペースの不足・支援者不足と続いています。

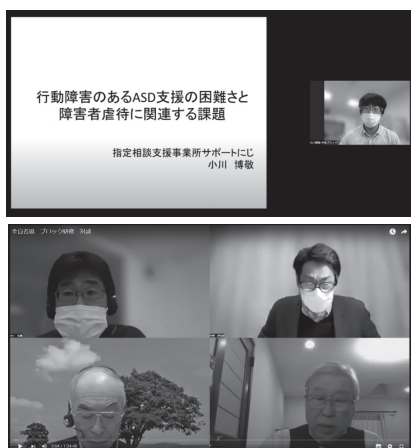
また、どんな支援の困難さがあるのか？という問いには「自傷」「他害」「こだわり」などが続きそれらの行動を止めることでその止め方が虐待に当たるとは不安を抱えているなども挙げられていました。また虐待と思っても市町村虐待通報をするかどうかの不利益がおこるのではという不安があるというのが挙げられ、その要因として「職場環境」「職場関係」「職場体制」や都会と地方などの地域状況の差、特に地域に1つしか福祉施設がない場合など市町村に通報することのハードルの高さなどもあると考察されていました。

小川様の報告ではA県の調査結果でしたが、全国的にも同じ状況を抱えていることが対談の話でもよく分かりました。対談でも支援スキルの向上や人材の育成の事を多く語られていました。国としても支援のエビデンスとしての研修である強度行動障害支援者養成研修などが行われていますが、その研修を現場でどれだけ実践できているのかには課題が

あり、実践していける土壌をどのように作っていくのか、発達障害者支援センターの地域支援マネジャーの役割もありますが、当然マンパワーは足りません。そうした中でのスーパバイズできる人材育成や実践など、それぞれの利用者さんが今、生活や活動しているスタイルを継続できるように集中的にサポートできるなどのモデル的な取り組み、など私たち全自者協での行うべきことも見えてきたと感じました。

人材育成や新たなケースの受け入れなども私たち法人でも大きな課題ではありますが、組織作りは人創りであると松上会長のお言葉のように支援や仕組みをコツコツ積み上げていくことやその積み重ねを共有できるチームづくりをしていく必要性を改めて認識できました。

はるにれの里 中村修一



全自者協の逸品



めひの野園

—自分らしく歩いていくこと—

手をとってふくらむ笑顔

社会福祉法人めひの野園「ウォーム・ワークやぶなみ」生産課は就労継続支援B型事業所として、利用者一人ひとりが生き活きと輝ける環境作りに取り組み、「めひの野園らしさ」溢れるオリジナル商品を生産しています。

飛騨地鶏肉味噌

めひの野園の事業所「飛騨流葉牧場」で生産された旨味たっぷりの「飛騨地鶏肉」と、「作業センターふじなみ」の椎茸の食感がマッチした、事業所間のコラボレーションで生まれた商品です。



ここがPoint!

ご飯にはもちろん、インスタントラーメンとの相性も good!

ゆず味噌

園の畑でたわわに実った柚子を使った香り豊かな「ゆず味噌」です。

無添加にこだわって作った自然の風味をお楽しみいただけます。



ここがPoint!

寒い季節はふるふき大根にピッタリです!



めひの平飼い卵

「平飼い」という飼育方法で自由に伸び伸び育てた鶏の卵です。太陽の光をたっぷり浴びて育った鶏の卵は栄養価が高く味も良いと評判です。



ここがPoint!

鶏のエサにもこだわり、高品質の飼料に加え、県産の米や野菜を与えています。



旬のジャム

採れたての果物の風味をそのまま閉じ込めたジャムです。

ここがPoint!

地域の特産「呉羽梨」を使った「梨じゃむ」は、地産地消のオリジナル商品として人気です。



社会福祉法人めひの野園

ウォーム・ワークやぶなみ生産課

住 所 富山市西金屋 8363-2

☎ 076-434-5895

✉ mehino@gmail.com

HP <http://www.mehino.jp/>



社会福祉法人めひの野園 | 富山市

www.mehino.jp

第 36 回 全日本自閉症支援者協会 研究大会 開催要項 (案)

1. 大会趣旨

「共に生きる社会を目指して」

2016 年に起きた津久井やまゆり園事件から 7 年、その後も、神奈川県内の施設のみならず、障害の有る人たちへの虐待等の問題の発生を告げる報道がマスコミを通じてなされる日が絶えない状況が続いている事実を、福祉の仕事をしている私たちは重く受け止めなければならないと考えています。このような状況は本協会が設立当初から目指してきた「自閉症児者の人権と生きるための発達保障、自立ならびに社会参加」の実現はいまだ達成できていない状況です。

神奈川県は、事件以後に行ってきた取り組みの結果の一つとして、2023 年 4 月に「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例 ～共に生きる社会を目指して～」を施行しました。こうした状況を踏まえ、今大会のテーマを「共に生きる社会を目指して」とし、障害のある人たちの権利について理解を深め、支援者として備えておくべき資質について改めて学ぶとともに共に生きる社会の在り方を考える機会としたいと考えました。

未だに新型コロナウイルス感染症の収束については予断を許さない状況ですが、4 年ぶりに、全体会だけでも対面研修を再開したいとの声も多く以下のように企画いたしました。尚、分科会については実践報告という形で、後日配信による報告としたいと考えています。

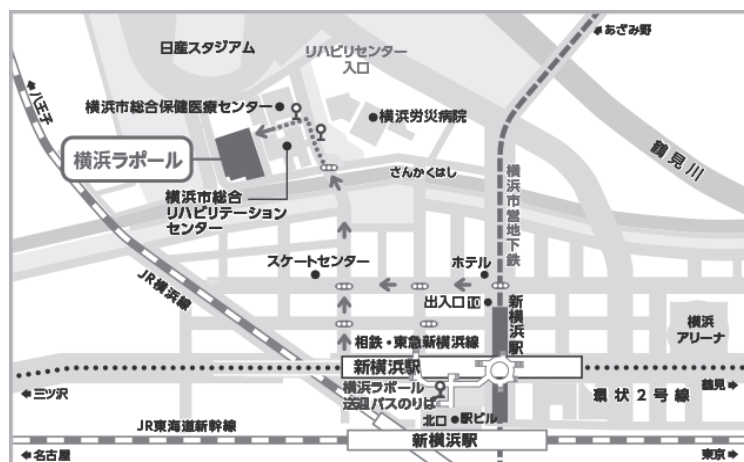
1. 主 催 一般社団法人 全日本自閉症支援者協会
2. 開 催 担 当 全日本自閉症支援者協会 神奈川ブロック加盟施設
3. 後 援 厚生労働省、こども家庭庁、神奈川県、
一般社団法人日本自閉症協会、
公益財団法人日本知的障害者福祉協会、
一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会
4. 期 日 令和 5 年 12 月 11 日 (月) 13:00 ～
5. 会 場・形 式 全体会：横浜ラポールシアター (〒 222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752)
最寄り駅：JR 新横浜
実践報告：後日、インターネット YouTube 上でご視聴いただけます。
6. 参 加 対 象 者 全日本自閉症支援者協会会員施設職員他、自閉症・発達障害・知的障害の支援に関わる職員、家族(保護者)、その他関係者、大会の内容に興味のある学生
7. 定 員 150 名
8. 参 加 費 無料ですが、事前申し込みが必要です。
下記の URL ないし、右記 QR コードからお申し込みください。
<https://forms.gle/ehB15qRptWHLUCKAA>
9. お 問 合 せ 【大会の内容に関すること】
大会事務局 - 社会福祉法人横浜やまびこの里
担当 小林
〒 224-0024 横浜市都筑区東山田町 270
TEL 045-591-2728 FAX 045-591-2768



2. 大会日程・概要

時間	内容
13:00	開会
13:00～13:10	挨拶 桧上 利男 氏（全自者協 会長）
13:10～14:10	行政説明①「発達障害支援施策について（案）」 厚生労働省 西尾 大輔 氏（地域生活・発達障害支援室） 行政説明②「こども家庭庁における発達障害児施策（案）」 こども家庭庁 今出 大輔 氏（障害児支援課）
14:10～15:40	基調講演 「いわゆる「障害者の人権」を守るために、私たちに何が求められているのか」 講師 臼井 正樹 氏（神奈川保健福祉大学 名誉教授）
15:40～16:10	報告「全自者協加盟施設における実態調査」 報告者 中野 伊知郎 氏（全自者協 権利擁護委員会委員長）
16:10～17:50	鼎談「自閉症の人たちの権利をいかに守るか（案）」 鼎談者 ・野澤 和弘 氏（植草学園短期大学副学長） ・桧上 利男 氏（全自者協 会長） ・中野 伊知郎 氏（全自者協 権利擁護委員会委員長）
18:00	閉会

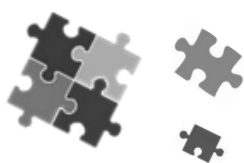
電車・徒歩・バスをご利用の場合



拡大地図



- 新横浜駅から徒歩の場合
 - ➔ JR 横浜線「新横浜駅」（北口）／横浜市営地下鉄および相鉄・東急新横浜線「新横浜駅」（1 番、5 番 A、9 番出口）から徒歩約 10 分
- 新横浜駅からリフト付き送迎バス（無料）をご利用の場合
 - ➔ 新横浜駅前（北口・福祉施設行バス乗り場）から、横浜市総合リハビリテーションセンター／横浜ラポール専用（無料）約 5 分
- 横浜市営バスをご利用の場合
 - ➔ 横浜市営バス（300 または 96 系統）で、「浜島橋」下車 徒歩 2 分横浜市営地下鉄「仲町台駅」／JR 横浜線・横浜市営地下鉄および相鉄・東急横浜線「新横浜駅」



ASJ総合保障

「自閉スペクトラム症のための総合保障」

— 新規加入のご案内 —



* こんな時にもお役に立ちます *

HAPPY WITH AUTISM

自閉スペクトラム症の人たちやご家族の多くが、日ごろ心配に思っている
入院や他人への損害賠償などの不安を少しでも軽くするための保険です。



施設や他人の家の
ガラスを壊してしまった



検査のために入院する



虫歯治療で
入院することになった



自転車事故が心配 ...
損害賠償責任を
負うことになったらどうしよう？

保障内容

詳細はお問い合わせください。パンフレット等をお送りさせていただきます。

【ASJ保険】 病気やケガ・検査での入院に備えて(入院を開始した2日目から保障します)

●入院保障金 1会計年度30日まで

・付添介護費用	1日	8,000円
・差額ベッド費用	1日	5,000円
・入院臨時費用	1入院	5,000円
・入院諸費用	1日	1,000円

●死亡弔慰金(受取人は法定相続人となります) 5万円



【AIG損保普通傷害保険】 ケガをした時、他人への損害賠償、弁護士等を利用した時に備えて

●弁護士費用等補償

・法律相談費用	1事故あたり	5万円まで(1回1万円まで)
・損害賠償請求費用	1事故あたり	200万円まで
・弁護士接見費用(無罪・不起訴のみ)	1事故あたり	1万円まで

●他人への損害賠償(対人・対物) 1事故あたり 最高3億円まで

●本人の傷害(ケガ)の補償(ケガでの入院、通院を初日から補償します)

・入院(180日限度)	1日	3,000円	・死亡保険金	226万円
・手術(1事故あたり1回まで)	3万円もしくは1.5万円		・後遺障害保険金	226万円～9.04万円
・通院(90日限度)	1日	1,500円		(障害の程度に応じて)



会 員 種 別	掛金内訳
◆加入プランA 日本自閉症協会正会員(加盟団体)の構成個人会員	15,900円 ASJ保険料 6,100円 AIG損保保険料 9,300円 年会費 500円
◆加入プランB 自助会員(上記A以外の方は保険加入と同時に自助会員となります)	17,900円 ASJ保険料 6,100円 AIG損保保険料 9,300円 年会費 2,500円

・年度の途中でもご加入いただけます。詳細はお問い合わせください。

お問い合わせ・お申込み フリーダイヤル 0120-880-819



一般社団法人 日本自閉症協会 ASJ保険事務局

〒104-0044 東京都中央区明石町6-22 ニッコンビル6F

TEL: 03-5565-2020 FAX: 03-5565-2021 E-Mail: asj-hoken@autism.or.jp

営業日: 月～金(土・日・祝日除く) 10:00～16:00

◎入院保険金のご請求や届出住所・金融機関等をご変更の場合は、ASJ保険事務局までご連絡下さい。

◎ケガ・個人賠償・弁護士費用については、AIG損保取扱代理店(株)ジェイアイシー 0120-213-119へお問い合わせください。